

北方の
炭鉱閉山50年

燃える 石を握れ!!

日本のエネルギーを支えた石炭。

武雄市北方町は、かつて石炭産業が盛んな地域でした。

北方の炭鉱が閉山してから50年が過ぎるのを記念して、

武雄・北方の石炭史を紹介します。

令和5年

2.25_土 — 3.26_日

主催・開催場所

武雄市図書館・歴史資料館

〒843-0022 佐賀県武雄市武雄町大字武雄5304-1 TEL.0954-28-9105

蘭学・企画展示室

金・土 9時-18時

日~木 9時-17時



ギャラリートーク

3月5日[日]、3月25日[土] いずれも14:00~

新型コロナウイルス感染症等の影響により、変更・中止となる場合があります。

観覧無料
会期中無休

北方の
炭鉱閉山50年
燃える石を掘れ!!



炭鉱絵馬



巻上げトロツコと棹取工具

近代以降、日本のエネルギー産業を支えた石炭。石炭は、「燃える石」とも呼ばれ、植物が長い年月をかけて変成されてできた「化石燃料」です。佐賀では、享保年間(1716~1736)に北波多(唐津市)で発見されたのが初めてとされ、宝暦元(1751)年には佐賀藩多久領大崎村(北方町大崎)の大副山で石炭採掘が開始されました。佐賀藩武雄領でも永島・花島などで採掘がおこなわれていた記録が残っています。

明治時代になると、国の許可を得た地元有志により、石炭の採掘が継続されました。やがて大規模資本の進出により、各坑区は合併や共同開発が進められ、杵島北方炭鉱や西杵炭鉱などにまとめられました。機械化が進められ、近代石炭産業が確立していきました。また、明治28(1895)年の佐賀一柄崎間における鉄道の開通は、石炭輸送に大きな変化をもたらしました。

石炭は、戦後のエネルギー政策の転換により、主役の座を石油に取って代わられました。杵島北方炭鉱は昭和39年に閉山、西杵炭鉱も昭和47年に閉山しました。西杵炭鉱が閉山して50年が過ぎるのを記念して、武雄の炭鉱の歴史を紹介する企画展を開催します。



安全旗(明治西杵)



北方炭鉱ボク山から椀島を望む



北方炭鉱用土資材遠望



看板(新明治炭業株式会社 西杵事務所)



看板(西杵炭鉱救護隊本部)



発破器



武雄市図書館・歴史資料館

〒843-0022 佐賀県武雄市武雄町大字武雄5304-1
TEL.0954-28-9105 FAX.0954-28-9205
E-mail:epochal@city.takeo.lg.jp

<http://www.city.takeo.lg.jp/rekisi/his-top.html>